

徳島大学における防災啓発活動と自主防災支援

徳島大学環境防災研究センター 正会員 ○中野 晋
徳島大学環境防災研究センター 正会員 黒崎ひろみ
岐阜市立女子短期大学 正会員 小川 宏樹
徳島大学環境防災研究センター フェロー 岡部 健士

1. はじめに

本センターは平成 16 年 4 月に地域の環境と防災に関する総合的研究と地域貢献体制の確立を目的として学内組織として設置され、3 年間が経過している。その間、自然環境保全と地域防災に関して市民も含めた産官学連携のプロジェクトに取り組んでいるが、特に防災面では防災科学部門を中核として、広範な社会貢献活動を行っている。連携対象主体は徳島県などの地方自治体、小・中学校などの初等・中等教育機関、社会福祉法人、自主防災組織、新聞社の他、平成 18 年度からは企業防災を推進するために NPO 法人、企業団体、政府系金融機関などとも協力関係を構築している。

2. 行政の防災対策支援

防災研究を進める多くの研究者が行政の防災対策に関わっているが、本センターでも洪水対策、津波対策などで各自治体との共同研究を行っている。

洪水対策としては平成 16 年の台風 23 号で大きな浸水被害を被った徳島市及び鳴門市の浸水メカニズムの再現調査を実施し、これをもとにした洪水ハザードマップの作成などを行うなど、総合的な洪水防災計画の作成支援を行っている。

平成 17・18 年度は徳島県立防災センターと共同で地域防災推進員養成研修講座（各 6 日間）を開催し、約 70 名の防災リーダーを養成した。写真 1 は平成 17 年度の研修会の状況である。

3. 自主防災活動支援

自助、共助が地域防災の中心であり、本センターでも最も力を注いでいる分野である。平成 18 年度に限っても、次の 7 市町 10 地区の自主防災会の活動を活発化させるための支援を行っている。支援内容は防災研修会の開催、地区の防災マップの作成などであり、自治体からの依頼の有無に拘わらず実施している。

◎支援地区と対象災害

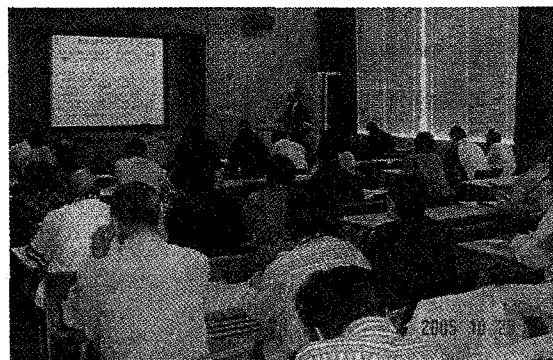


写真1 地域防災推進員養成研修講座



写真2 横須町自主防災会役員研修会



写真3 海陽町穴喰西南地区研修会

徳島市（沖洲：津波）、鳴門市（木津神：洪水）、小松島市（横須：津波）、阿南市（那賀川：津波、羽ノ浦：地震、黒津地：津波）、美波町（日和佐：津波、由岐：津波）、海陽町（穴喰：津波）、吉野川市（美郷：洪水・土砂）（ ）内は地区と対象災害を示す。

各自治体が自治会などを足がかりに自主防災会の組織化を図っており、急速に自主防災組織の絶対数は増加しているが、継続的な活動が行われている組織は限られている。自主防災活動の意義を理解することや活動を継続させるためのノウハウを得るためにも大学などの研究機関や民間団体等による支援が必要である。写真2及び3は横須町、海陽町で実施した防災研修会の様子である。両地区とも自主防災活動を始めたばかりであり、津波避難や活動計画作成などに関してグループワークや研修会を実施するために講師を派遣するなどの協力を行っている。

4. 学校防災教育

自主防災組織の構成員には時間的にもゆとりのある高齢の方が多く、20～30代の若い世代の方の参加は少ない。また次世代の防災対策を担うはずの青少年の多くは防災に関心である。地域防災を進める上であまり関心のない世代にいかに関心意識を浸透させるかが最も困難で重要な課題である。学校防災教育は小・中・高の児童や生徒に直接防災について考えてもらう機会を提供するとともに、児童・生徒を通して両親の世代にも防災意識の浸透を促す効果を持っている。教育を介して防災に関心のある住民を1人でも増やしたいとの思いから、学校での防災教育の実施を徳島市社会福祉協議会やボランティア団体と協力しながら県内各地の教育現場に働きかけている。本センターが平成17年、18年の2カ年に支援した学校は1幼稚園、7小学校、6中学校、2高校、養護学校及び盲学校の18校である。災害危険度の違いなどによる地域性、対象年齢、各学校の抱える課題はもとより、担当教員の要望事項や関心度が異なるため、学校ごとに教員と相談しながら進めている。カリキュラムの例を表1に示す。また、こうした取り組みの中で中・高生の関心を少しでも高めることを目指して、演者の1人は「ストリートダンス避難訓練」の開発し、県内だけでなく、マスコミやインターネットなどを通して全国的に拡がりつつある。

5. 企業防災支援

表1 防災教育カリキュラムの例

	A中学校(14日程度)	B中学校(8日程度)	C中学校(22日間)
1. 知る	講義(气象台) ゲーム(すごろく) 地域の話 防災訓練 防災センター体験 救命講習	講義(气象台) ゲーム(避難ゲーム) 地域の話 防災センター体験 救命講習	講義(DVD)→GW ゲーム(避難ゲーム) 体験談(地域住民) — — 救命講習
2. 考える	テーマ選択 学習計画 ・グループごとに学習計画を立てる	テーマ選択 学習計画 ・グループごとに学習計画を立てる	— — — 防災標語→GW カレンダーの基本形→GW ・グループごとに「担当月」がある 30年後について
3. 調べる	避難訓練(夏休み):引 グループ学習(校外:6/8班) アンケート(地域住民):引 ものづくり(すごろく):引 本・インターネットで調査	— グループ学習(校外:1/8班) 電話で問い合わせ 大学で話を聞く 本・インターネットで調査	— インタビュー(地域住民)→GW 防災マップづくり→GW (地域の危険箇所) —
4. まとめる	ミニコミ誌 発表準備:引	ミニコミ誌 —	防災カレンダー →GW 発表準備
5. 広める	発表会:引 地域に掲示	校内HP掲載 地域に掲示	他学年に発表 カレンダーの配布



写真4 徳島市内の中学校で実施された防災訓練(こまった訓)(この訓練は川内中学校、徳島市社会福祉協議会、徳島新聞社、ボランティアグループ徳島の風、本センターほかの協力で実施された。)

自主防災、学校防災教育に加えて、平成18年度からは企業防災の推進にも力を入れている。徳島県と連携して県内の中小企業の防災対策の現状についてアンケート調査を実施したほか、平成19年2月6日には徳島県、日本政策投資銀行、NPO法人事業継続推進機構、徳島大学の4者でBCP(事業継続計画)推進に関する協力協定を締結し、企業防災を担当または支援できる人材の育成にあたることとなった。

6. 大学での防災教育

最後に、平成19年度からは全学共通教育の教養科目として「災害を知る」「災害に備える」の2科目を新たに開講する。この2科目を履修したものを「徳島大学防災リーダー」と認定し、安全・安心な社会の構築に役立つ人材の育成を目指して制度設計を行っている。